

(30)

氏名(生年月日)	田 辺 誠
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第956号
学位授与の日付	昭和63年7月15日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	小腸造影におけるジャイロスコープの有用性
論文審査委員	(主査)教授 小幡 裕 (副査)教授 重田 帝子, 教授 丸山 勝一

### 論 文 内 容 の 要 旨

#### 目的

小腸二重造影法は、小腸の炎症性疾患に対して不可欠な検査法である。ルーチンの小腸二重造影法において、上部小腸、中部小腸の描出能は、ほぼ満足出来る成績であるが、下部小腸、特に小骨盤腔内回腸の描出能は成績が劣り盲点とされていた。これを改善するため独特な体位をとれるジャイロスコープを小腸造影に利用し、同部の描出能に関する有用性を検討した。

#### 対象および方法

対象は腹痛、下痢、下血を主訴として来院した患者、および注腸 X 線検査にて大腸病変が認められた症例など計100例である。小腸造影法としては、経チューブ直接投与法によりバリウムを分割投与し、さらに、空気を注入し全小腸二重造影像とした。撮影はジャイロスコープを使用し、各種体位にて行ない、小骨盤腔内回腸の描出能を検討した。

#### 成績

1) 有所見者は38例で、クローン病19例、終末回腸部潰瘍6例、憩室3例、小腸狭窄2例、単純性潰瘍・ポリープ・虚血性小腸炎・非特異性多発性小腸潰瘍症・Cronkhite-Canada 症候群・PSS 各1例、その他2例であった。

2) 腸管の伸展良好で盲点が少なく二重造影の描出範囲の広いものを良好とし、腸管の伸展不良で二重造影の描出範囲の狭いものを不良とし、この両者以外のものを中間とした。検討対象100例における成績は、1) 描出良好・62例、2) 描出不良・16例、3) 中間・22例であった。

3) ジャイロスコープは、1. 倒立位をとれるため空気が回腸に溜りやすく、回腸の伸展が良好である。2. 側臥位(いわゆる Decubitus 体位)をとれるため、バリウムを一定方向に寄せて撮影出来る。3. 倒立位、側臥位、斜位を組み合わせることが出来るため、過剰なバリウムの残存を除き、より多方向からの撮影が可能となり、小骨盤腔内回腸の観察の盲点が少なくなり、下部小腸の描出能良好例は、62%であった。

#### 結論

小腸二重造影法におけるジャイロスコープの有用性について検討した。特に下部小腸の描出能は一般機種における良好率は約40%であったのに対してジャイロスコープによる良好率は62%と向上がみられた。なお小骨盤腔内回腸を良好に描出するためには「倒立位」「左側臥位」「第2斜位」を組み合わせた体位が最も優れていることが判明した。

## 論文審査の要旨

炎症性小腸疾患は下部小腸に好発する。しかし従来の小腸二重造影法は下部小腸の描出能に難点があり、その部位が盲点とされていた。

本論文はジャイロスコープを用いて、体位を自由に変換させることにより小骨盤腔内の下部小腸の描出能が著しく向上する成績を示したものである。

学術上価値ある論文と認める。

### 主論文公表誌

小腸造影におけるジャイロスコープの有用性  
東京女子医科大学雑誌 第58巻 第3号  
317～324頁（昭和63年3月25日発行）

### 副論文公表誌

1) 腸の病気 (3) 小腸の内視鏡検査  
日本医事新報 No. 3045 37～40 (1982)

2) 腸の病気 (9) 潰瘍

日本医事新報 No. 3065 37～40 (1982)

3) 日本住血吸虫症の大腸病変

Gastroenterol Endosc 28 (5) 969～975  
(1986)

4) 腸の炎症性疾患

外科治療 55 (4) 537～555 (1986)